

東南アジアの自然と農業研究会

第 117 回研究例会のご案内

第 117 回定例研究会を開催いたします。今回は、京都大学生態学研究センターの鮫島弘光氏に下記のように報告していただきます。皆様のご参加と活発な討論を期待しております。

今回は開催の週が通常と異なります。ご注意ください。
お知らせが遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

記

日 時： 2004 年 10 月 29 日（金）午後 4 時～午後 6 時

会 場： 東南アジア研究所 東棟 2 階第 1 教室
京都市左京区吉田下阿達町 46
川端通り荒神橋東詰め

話題提供者： 鮫島 弘光 氏（京都大学生態学研究センター）

話 題： 「ボルネオにおけるオオミツバチの渡り」

要 旨：

熱帯アジアに広く分布するオオミツバチは、ハチミツやミツロウといった非木材林産資源を人々にもたらし、樹木の送粉を助けることによって森林の更新に寄与する。彼らは花の季節に応じて森から森へ渡りをしているといわれているがボルネオ、マレー半島などの非季節性湿潤熱帯ではその具体的な遊動パターンは明らかになっていない。

演者はマレーシア連邦サラワク州バラム川全流域（流域面積 23,000km²）においてコロニー動態を追跡し、その遊動パターンを推定した。また下流域においては地元のハチミツ採集を営む人物との協力のもと巣を採集し、働き蜂の DNA マイクロサテライト解析からそれぞれの時期に営巣したコロニーの遺伝的関係を調べ、この遊動パターンを裏付けるとともに、巣中貯蔵花蜜・花粉源植物の同定からそれぞれの時期に依存している植物種相を明らかにした。これらのことからオオミツバチは、植物種の多様性が比較的 low、水位が明瞭な周年サイクルで変動する淡水湿地林で個体群を維持し、低地・丘陵林には散発的に渡ってくるという遊動パターンを持っていることが示唆された。

問い合わせ先： 星川圭介 総合地球環境学研究所

Tel. 075-229-6155 mailto: hoshi@kais.kyoto-u.ac.jp

田中耕司 京都大学東南アジア研究センター

Tel. 075-753-7307 mailto: kktanaka@cseas.kyoto-u.ac.jp

ホームページ： <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/seana/>